- 1 整備の趣旨・目的
- 2 施設概要
- 3 沿革
- 4 組織
- 5 平成 23 年度人と防災未来センター特別会計収支予算書
- 6 資料室のあらまし
  - (1) 資料室の概要
  - (2) 震災資料の収集・保存事業の経緯
  - (3) 資料室受け入れ図書件数、資料点数、閲覧件数
  - (4) 人と防災未来センターにおける調査の流れとデータベース(資料点数)の関連
- 7 新聞記事がとりあげた人と防災未来センター
- 8 研修カリキュラム表
- 9 センター刊行物



# 整備の趣旨・目的

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターは、わが国で初めて社会経済的な諸機能が高度に集積する大都市を直撃した直下型地震である阪神・淡路大震災の教訓を後世に残し、震災とその復興過程から得られた知識や知恵を世界に情報報発信することによって、世界の災害対策に生かそうという「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想」がその開設の端緒となっている。

震災があった 1995 年の 10 月、政府の「阪神・淡路復興委員会」が、復興特定事業のうち極めて意義のあるものとして阪神・淡路大震災記念プロジェクトを提言。そして、国、県、神戸市、民間で同プロジェクト検討委員会が設置され、その後に設立された(財)阪神・淡路大震災記念協会(理事長=石原信雄・地方自治研究機構理事長(設立当時))で、学識者、民間団体代表、行政代表で構成する同センター基本構想検討委員会を設置、1999 年 5月 26日に基本構想(基本的考え方)が公表された。さらに 6 月には、有識者、行政などによる「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会」(会長=新野幸次郎・神戸都市問題研究所長)を設置し、「阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想」を策定した。同年 12 月、国の 1999 年度第 2 次補正予算で、メモリアルセンター施設整備費約 60 億円の 2 分の 1 にあたる約 30 億円が国庫補助金として予算措置され、2000 年度以降の各年度においても、運営費補助が計上されることとなった。

さらに、政府の「阪神・淡路復興対策本部」の最後の会合が、翌 2000 年 2 月 22 日に開かれ、 同センターの整備事業が復興特定事業に追加選定された。

「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想(基本的考え方)」によると、同センター構想は「人類史上初めての高齢社会下の大都市直下型地震による大災害であった阪神・淡路大震災により、我々は生命の尊厳やともに生きることの重要性、近代都市の脆弱性など、人類が営々と築き上げてきた 20 世紀文明に対する反省と教訓を得た」との認識を基に、「はからずも露呈した近代都市や近代文明の災害に対する脆弱さからは、『人と自然との共生』が、また復興過程でコミユニティやボランティアが果たした役割の大きさからは『人と人との共生』が、それぞれ重要な概念として認識されることになった。わが国は地震列島であり、将来、再び大地震が都市を襲う可能性を多分に有しており、震災から得られた反省と教訓を生かし、世界中で今後起こり得る同様の災害の防災と、それからの復旧・復興に貢献する義務がある。阪神・淡路地域こそ、世界における震災復興のフロンティアでありモデルであるとの自覚のもと、来るべき 21 世紀の世界に貢献し得る役割を担おう」との趣旨でまとめられた。

2000 年度には、「展示·交流検討委員会」、「人材育成等検討委員会」を設置し、展示内容や、 調査研究活動、人材育成等のソフトについて、各界の代表者等からの意見等をふまえて具 体化に向けた検討を精力的に重ねていった。

さらに、「メモリアルセンターフォーラム」等の開催を通じて、一般県民等からの期待や 意見についても把握し、委員会等での検討に供した。

そして、2001年1月に一期施設「防災未来館」の建築工事に着手し、翌2002年3月末 に施設が完成し、4月21日に皇太子同妃両殿下をお迎えして、開館記念式典が執り行われ、 4月27日から一般公開された。

さらに、2001年11月には二期施設「ひと未来館」の建築工事に着手し、2003年3月末に施設が完成した。4月24日には、開館記念式典が防災担当大臣等のご参列のもと行われるとともに、翌25日には、「いのちの尊さと、ともに生きることの素晴らしさーひと未来館の展示がめざすものー」をテーマとした鼎談など開館記念イベントが開催された。

4月26日からは一般に公開され、ここに阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターは グランドオープンに至った。

震災から復興が進むなか、防災未来館の展示については、センター開設後の時間経過に伴う復興への新たな課題と情報の追記、防災・減災に関する情報発信の強化等が必要となったため、2005年9月に学識者等で構成する「人と防災未来センター展示検討委員会」を設置し、展示更新内容について検討を重ね、2006年7月に「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター展示検討報告書」をとりまとめた。

2007年には、その内容を踏まえて、一期施設「防災未来館」において展示のリニューアルを実施し、2008年1月9日から一般に公開した。

また、「ひと未来館」においては、阪神・淡路大震災の教訓としての「いのちの尊さ」や「共に生きることの大切さ」を伝える展示を行ってきたが、近年、体験型の環境学習機会や学習施設が充実されてきたことに加え、世界的に多発する大規模自然災害への対応が求められていること等から、2009年3月末をもって休止され、風水害に関する防災展示を充実する等の改修を経て、2010年1月8日から再オープンした。併せて、「防災未来館」を「西館」、また「ひと未来館」を「東館」と館の名称を変更したほか、入館料金体系を変更し、両館の一体的な展示運営を行っている。



# 施設概要

# 1 施設概要

区分	西館(旧防災未来館)	東館(旧ひと未来館)
	鉄骨造(制震構造)	鉄筋コンクリート造(制震構造)
₩₩珊	地上7階、地下1階、塔屋1階	地上7階、地下1階
│ 施設概要 │	建面積:1,887.80 ㎡	建面積: 2,059.97 ㎡
	延面積:8,557.69 ㎡	延面積:10,197.08 ㎡
整備スケジュール	平成12年 3月~ 基本設計及び実施設計 平成13年 1月 建築工事着工 平成14年 3月 完成 4月27日オープン 平成19年12月29日 展示改修のため休止 平成20年 1月 9日 リニューアルオープン	平成 12 年 9月~ 基本設計及び実施設計 平成 13 年 11 月 建築工事着工 平成 15 年 3月 完成 4月 26 日オープン 平成 21 年 4月 1日 展示運営を休止 平成 22 年 1月 8日再オープン

# 2 建物内配置図(平成 24 年 3 月 31 日現在)

有料ゾーン

	西		東	館	
7F	機械室	収蔵庫	ł	幾 械	室
6F	阪神·淡路大震災記 研究部門(研究)	念 人と防災未来センター 室等)	(公財)ひょうご	震災記念	念21世紀研究機構
5F	人材育成部門(セミナー室等) 資料室		国連人道問題 国連国際防 国際防災復見 アジア防災も 地球環境戦略	災戦略 興協力・マンター	兵庫事務所 機構
4F	展示部門(震災追体験フロア)				炎教育センター 動研究ネットワーク
3F	展示部門(震災の記憶フロア)				ついて学ぶフロア) トレーニングサイト)
2F	展示部門 (防災・減災体験フロア)			(2;	展示部門 ころのシアター)
1F	ロビー、ガイ	ダンスルーム 等	レストラン・ ショップ		



# 沿革

### <1999年(平成11年)>

- 。 2.17 (財) 阪神・淡路大震災記念協会に「阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想検討委員会」を設置
- 。 5.26 阪神・淡路大震災メモリアルセンター基本構想のとりまとめ・公表
- 。 6.2 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会の設立
- 6.12 阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会専門委員会の開催
- 。 6.28 阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想のとりまとめ・公表
- 。 11.12 国土庁長官が記者会見で「メモリアルセンターの施設整備費について 11 年度 補正において所要の補助金を計上する。運営費についても平成 12 年度以降の 各年度において所要の補助金を計上する | 旨発表
- ・ 12. 9 国の平成 11 年度第 2 次補正予算(11 月補正)が成立。メモリアルセンター 施設整備費(約 60 億円)、うち国庫補助金(約 30 億円)が予算措置
- 。 12.24 メモリアルセンター運営費補助金(12年度分 63 百万円)が盛り込まれた国 の平成 12年度当初予算が閣議決定

## < 2000年(平成12年)>

- 。 1.29 「阪神·淡路大震災メモリアルセンター設計プロポーザル選考委員会」の設置。 第1回委員会を開催し、選考基準、プロポーザル作成要領を検討
- 。 2.22 「阪神・淡路大震災復興対策本部」最終会合でセンター整備事業が復興特定 事業に追加選定
- 。 2.26 第2回選考委員会において、最適設計者を選定
- 。 3.22 1期設計委託契約締結
- 。 5.8 第1回「展示・交流検討委員会」開催
- 5.19 第2回「展示・交流検討委員会 | 開催
- 。 5.26 第1回「人材育成等検討委員会ワーキング会議|開催
- 。 5.27 第2回「人材育成等検討委員会ワーキング会議 | 開催
- 。 6.17 第3回「展示・交流検討委員会」開催
- 。 8.28 第4回「展示・交流検討委員会」開催
- 9.18 ヘルスケアパーク構想のうち県立のミュージアム部分をメモリアルセンター 2期として整備することを決定
- 。 9.29 2 期設計委託契約締結
- 。 10.14 第 1 回メモリアルセンターフォーラム開催
- 10.27 第5回「展示・交流検討委員会」開催
- 。 12.12 第3回「人材育成等検討委員会ワーキング会議」開催
- 。 12.27 第1回「人材育成等検討委員会 | 開催

### < 2001 年 (平成 13 年) >

- 。 1.6 1期建築工事安全祈願祭開催(工事着工)
- 。 1.15 センター長に河田惠昭京都大学防災研究所巨大災害研究センター長・教授が 内定、発表
- 2.19 第6回「展示・交流検討委員会 | 開催
- 。 10.10 2 期建築工事発注
- 。 10.30 第1回人材育成カリキュラム等検討委員会開催
- 。 10.31 第1回名称募集審查委員会開催
- 。 11. 9 2 期建築工事安全祈願祭開催
- 。 11.27 第2回名称募集審查委員会開催
- 。 12. 4 1 期展示工事安全祈願祭開催
- 。 12.11 第1回展示監修者会議開催
- 。 12.19 第2回人材育成カリキユラム等検討委員会開催
- 。 12.19 2 期展示製作委託発注

### < 2002年(平成14年)>

- 。 1.7 正式名称を「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」に決定、発表
- 。 1.21 第2回展示監修者会議開催
- · 3.31 1期施設「防災未来館」完成
- 。 4.21 開設記念式典開催
- 4.23 開設記念シンポジウム開催
- 。 4.27 「防災未来館」展示一般公開

### < 2003年(平成15年)>

- 。 3.31 2期施設「ひと未来館」完成
- 。 4.24 開設記念式典開催
- 。 4.25 開設記念イベント開催
- 。 4.26 「ひと未来館」展示一般公開

### < 2007年(平成19年)>

。 12.29 「防災未来館」展示改修のため休止

### < 2008年(平成20年)>

。 1.9 「防災未来館」展示リニューアルオープン(一般公開)

#### < 2009 年(平成 21 年)>

。 4.1 「ひと未来館」展示運営を休止

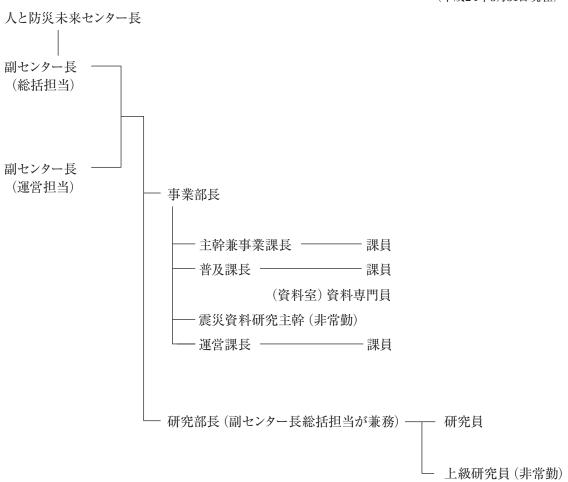
### < 2010年(平成 22年)>

。 1.8 「ひと未来館」展示再オープン(一般公開) 併せて、館の名称について「防災未来館」を「西館」に、「ひと未来館」を「東 館」に変更、また入館料金体系を変更



# 組織

(平成24年3月31日現在)



職員数 (単位:人)

所 属	職員	非常勤職員	日々雇用職員	計
事業部				
事業課	4	0	0	4
普及課	3	9	0	12
運営課	3	0	2	5
研究部	8	0	0	8
計	18	9	2	29

・センター長、副センター長(運営担当)、事業部長、震災資料研究主幹は普及課に、 副センター長(総括担当)は研究部に含む。



# 平成23年度 人と防災未来センター特別会計収支予算書

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:千円)

		 予算額		(単位:十円) 
科 目	23 年度当初	22 年度当初	増減	備考
   I 事業活動収支の部	20 中风当70	22 千汉当初	FB 1/1/4	
1事業活動収入				
(1) 事業収入	73,004	103,786	-30,782	
① 入館料収入	(53,964)	(79,008)	(-25,044)	  小・中学生の無料化等による減
② 駐車場等収入	(19,040)	(24,778)	(-5,738)	テナント賃料収入の減
(2) 補助金等収入	734,401	726,409	7,992	
① 指定管理料収入	(570,038)	(627,884)	(-57,846)	  コミュニティ防災調査研究費の減  入館料補てん(政策減免)補助金化の減
② 県交付金収入	(89,955)	(89,955)	(0)	CARTILIDA (SCALANDE) III SA SETE STON
③ 補助金等収入	(71,008)	(5,170)	(65,838)	  入館料補てん(政策減免)補助金化の増
④ 国等受託収入	(3,400)	(3,400)	(0)	
(3) 雑収入	32,734	45,449	-12,715	
① 受取利息	(1)	(1)	(0)	
② 雑収入	(32,733)	(45,448)	(-12,715)	テナント光熱水費等の減
(4) 寄附金収入	0	250	-250	  (財) 阪神高速地域交流センターからの寄附事業完了
事業活動収入計	840,139	875,894	-35,755	
2事業活動支出		,	,	
(1) 事業費支出	836.970	706,656	130,314	
①施設運営等事業費支出	(537,429)	(359,065)	(178,364)	  科目組替による増  テナント賃料の補てんの増
②研究調査等事業費支出	(154,590)	(181,163)	(-26,573)	コミュニティ防災調査研究費の減
③センター利用事業費支出	(49,646)	(67,903)	(-18,257)	光熱水費の減
④研究受託等事業費支出	(5,350)	(8,570)	(-3,220)	科研費等の減
⑤ひょうご安全の日関連事業費支出	(89,955)	(89,955)	(0)	
(2) 管理費支出	0	166,069	-166,069	科目組替による減
事業活動支出計	836,970	872,725	-35,755	
事業活動収支差額	3,169	3,169	0	
Ⅱ投資活動収支の部				
1投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2投資活動支出				
(1) 特定資産取得支出	3,169	3,169	0	
①退職給付引当預金取得支出	(3,169)	(3,169)	(0)	
投資活動支出計	3,169	3,169	0	
投資活動収支差額	-3,169	-3,169	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	4,980	3,469	1,511	
次期繰越収支差額	4,980	3,469	1,511	



# 資料室の概要

資料室では、阪神・淡路大震災に関連する資料(図書、ビデオ、紙資料、モノ資料、写真資料、映像・音声資料など)を検索・閲覧できる。

### 1) 資料室の体制

平成23年度は震災資料研究主幹(矢守克也・京都大学防災研究所教授)のもと、震災の実物資料である一次資料や図書やビデオなどの二次資料を担当する震災資料専門員4名、資料整理推進員3名により資料室の業務運営を行った。

### 2) 資料室の主な業務

資料室の業務は、次のとおりである。

- ①震災資料の調査、収集、整理、保存
- ②震災・防災およびその関連領域に関するレファレンス業務
- ③震災一次資料の閲覧申請、館外貸出についての対応
- ④震災学習、防災教育を目的とした所蔵ビデオ等の貸出
- ⑤震災、防災に関する情報発信
- ⑥他機関との連携

### 3) 資料室における資料の閲覧・複写及び利用者サービス

### ①資料の閲覧・複写

一次資料は、適切な温度・湿度のもとで管理する必要があるため、収蔵庫で保存されている。そのため、来室者が閲覧を希望する場合、申請書類の提出に基づき資料専門員が出納する。

二次資料である図書、雑誌、ビデオ、CD-ROM、DVD など約3万6千点は開架式で自由に閲覧でき、複写(有料)も利用できる。

#### ②利用者サービス

震災および防災等に関するレファレンス、震災資料提供に関する相談(資料提供申 し出の受け付け)などを行った。



震災資料検索用パソコン

### 4) 資料室の設備

①閲覧スペース

閲覧席 12 席、ソファー

②震災資料検索用パソコン 3台

内訳:キーボード検索パソコン 2台 タッチパネル検索パソコン 1台

一次資料約17万8千点、二次資料約3万6千点にのぼる資料は、資料検索用パソコンを使ってデータベースを検索することができる。パソコン操作に不慣れな利用者にはタッチパネル対応パソコンで検索可能な環境を整備している。

一次資料については調査先に関するデータ(所在地、氏名など)やキーワードなどによる検索が、二次資料については書名、著者名、出版社名やキーワードによる検索が可能である。これらの検索はセンターホームページ上(http://lib.dri.ne.jp/search/index.asp)からもできる。

- ③資料閲覧用パソコン 4台
  - ・デジタル版 街の復興カルテ/3Dマイホームデザイナー 被災地の復興の1年ごとの経過をパソコン上で閲覧できる。/パソコンに自宅の 構造や立地状況を入力することで、簡単に耐震診断ができる。
  - ・神戸新聞記事データベース検索システム 阪神・淡路大震災以降の神戸新聞の記事(地方版を含む)の見出し・本文が、キー ワード及び発行年月日を入力することにより検索可能。
  - ・阪神・淡路大震災地図情報経年閲覧システム 神戸市内の定点ポイントにおける、震災前・震災直後、復興過程の変化をパソコンの地図上で比較できる。それぞれの時期の地図を同一画面上に表示できるため、 震災前から復興の過程を概観できることが大きな特徴である。



阪神・淡路大震災地図情報経年閲覧システム画面

### ・阪神・淡路大震災 犠牲者の記録

震災犠牲者聞き語り調査会が、犠牲者の遺族に聞き取りを行ってまとめた「犠牲者の記録」の一部を公開している。震災犠牲者一人ひとりの詳細な記録を閲覧できる。

### ・末岡健次氏「僕の震災日記」

神戸市東灘区在住の末岡健次氏が、震災直後に撮影した映像や、自作の絵コンテを用いて作成した映像作品を上映している。



### ④ぼうさいみらい子ども文庫

2010年1月、阪神・淡路大震災 15 周年にあたり、次代を担う子どもたちに震災の経験と教訓を伝えるため、国際ソロプチミスト神戸からの寄贈により、資料室内に開設した。主に児童向けの図書、ビデオ・DVD を配架し、防災学習ゲーム等が体験できるようになっている。

### ○配架資料等

- · 図書(絵本) 約 230 点
- ・ビデオ等 約 20 点
- ・防災体験ゲーム「地震 DS72 時間」、カードゲーム等

### 5) 資料室における配布物

震災及び防災についてより多くの人々に発信していくため、次の資料を配布している。

- ・資料室ニュース
  - (センターホームページからダウンロード可能 http://www.dri.ne.jp/shiryo/news.html)
- ・『阪神・淡路大震災復興誌』第1、4、5、9、10巻((財)21世紀ひようご創造協会、(財)阪神・淡路大震災記念協会)
  - (センターホームページから全 10 巻がダウンロード可能 http://www.dri.ne.jp/shiryo/fukkoushi.html)
- ・『街の復興カルテ』平成9年3月、2000 ~ 2005年度版((財)21世紀ひようご創造協会、(財)阪神・淡路大震災記念協会)
- ・『「震災資料の分類・公開の基準研究会」報告書 ~阪神・淡路大震災関連資料の活用 に向けて~』((財)阪神・淡路大震災記念協会)
- ・『地震の将来予測への取組 地震調査研究の成果を防災に活かすために』(文部科学省)
- ・『災害ボランティア実践ワークショップガイド』(人と防災未来センター)
- ・『災害時要援護者にやさしい自主防災のポイント みんなでつくろう災害に強いまち』 (東京法規出版)
- ・『防災安心読本―わが家・わがまちを守る災害防止マニュアル―』(東京法規出版)
- ・『大切な家族と地域を守るために 防災対策のすすめ』(ひょうご安全の日推進県民会議)
- ・『人と防災未来センター資料室 2010 年度企画展図録 戦後神戸の歩みと阪神・淡路 大震災』

# 震災資料の収集・保存事業の経緯

### 震災資料の収集・保存事業の経緯の概略

震災一次資料の収集は兵庫県からの委託を受け、平成7年10月から(財)21世紀ひようご 創造協会によって、「震災とその復興に関する資料・記録の収集・保存事業」として収集事業が開始された。

平成10年4月以降は、(財) 阪神・淡路大震災記念協会がその事業を引き継ぎ、収集事業を継続すると共に、公開基準等を検討してきた。

平成12年6月から、約2年間にわたり、兵庫県により「緊急地域雇用特別交付金事業」を活用した大規模な震災資料の調査事業が行われ、のべ約450人の調査員がNPO、各種団体・組合、復興公営住宅、事業所、学校、まちづくり協議会等を訪問して、ビラ、チラシ、ノート、メモ、写真、避難所で使用された物などの「生の」資料、いわゆる一次資料(原資料)を中心に収集し、(財)21世紀ひようご創造協会や(財)阪神・淡路大震災記念協会が収集したものを含め、約16万点の資料が収集された。

平成14年4月に、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターが開館し、これまでに収集した震災資料は、センター資料室で保存・活用等を行うこととなった。

### 震災資料の収集・保存事業の年表

平成7年3月 阪神大震災地元NGO救援連絡会議に「震災・活動記録室」を設置。

5月 神戸大学附属図書館震災文庫が本格的に震災資料収集活動を開始。 兵庫県立図書館、神戸市立図書館でも、一次資料を含む震災資料の収集を 開始。

自治体、図書館、史料保存団体の有志、歴史研究者などによる相互協力活動の開始。

10月 (財) 21世紀ひようご創造協会が兵庫県の委託を受けて震災資料収集事業を 開始。

平成8年12月 非常勤嘱託(3名)を雇用。旧避難所等を中心に調査。

平成10年4月 (財) 阪神・淡路大震災記念協会が収集事業を引き継ぐ。事業内容のひとつ として、「阪神・淡路大震災に係る既存情報の収集整理・保存」を位置づ ける。

仮設住宅、ボランティアグループを中心に一次資料の調査。

「震災資料の分類・公開基準研究会」設置(~平成12年度末)。

平成11年4月 「公開基準検討部会」設置(~平成12年度末)。

平成12年6月 「緊急地域雇用特別交付金事業」による大規模調査を実施(~平成13年度末)。

平成13年4月 「震災資料の保存・利用、及び活用方策」研究会設置(~平成13年度末)。 「震災資料の保存・利用、及び活用方策」検討部会設置(~平成13年度末)。 平成14年4月 阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」資料室に事業を引き継ぐ。

### 参考資料 6 -(3)

# 資料室受け入れ図書件数、資料点数、閲覧件数

# 1 人と防災未来センター資料室 作業収集結果 (平成 24 年 3 月末現在)

部門		件数	效名	総 数	
		受入図書件数	図書	12,296	
		(購入含む)	雑誌	17,659	
		(	チラシ	1,458	
			映 像	826	
			その他	4,217	
			総 数	36,456	
図書		バーコー	<b>※登録件数</b>	8,348	
		図書購	入件数	2,810	
		目次入力	口済件数	18,503	
		依頼状乳	<b></b>	10	
		礼状発	送件数	131	
	ビデオ貸出本数(件数)		大米h (化米h)	291	本
		こ/ 4 貝田/	<b>个</b> 奴(广奴)	165	件
	調査先総数		先 総 数	17,509	
		資料提	是供者件数	3,759	
	入力済み件数	資料点数	映像・音声 ( 点数)	1,158	
			紙 (点数)	169,147	
   資料	           		モノ (点数)	1,421	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	数		 	5,896	
			子兵 (瓜奴)	125,736	枚
		彩	<b>总点数</b>	177,622	
	資料提供件数 (データ未入力を含む)		- タ未入力を含む)	8	件
	調査回数(データ未入力を含む)		タ未入力を含む)	8	□
			全体 数	60	
	相談業務件数		解 決	60	
   資料室全般			未 解 決	0	
具竹至土双			入力件数	1,964	
		資料閲覧申請件数	申請件数	23	
		具们 网 見 甲 明 干 奴	申請資料総点数	132	



# 2 平成23年度資料室受け入れ二次資料点数

			平成 23 年度	平成 23 年度 3 月末現在
			資料室受け入れ二次資料点数	二次資料点数(累計)
図		書	246	12,296
雑		誌	637	17,659
チ	ラ	シ	31	1,458
映		像	39	826
そ	0)	他	82	4,217
総		数	1,035	36,456

# 3 平成 23 年度資料室利用者数

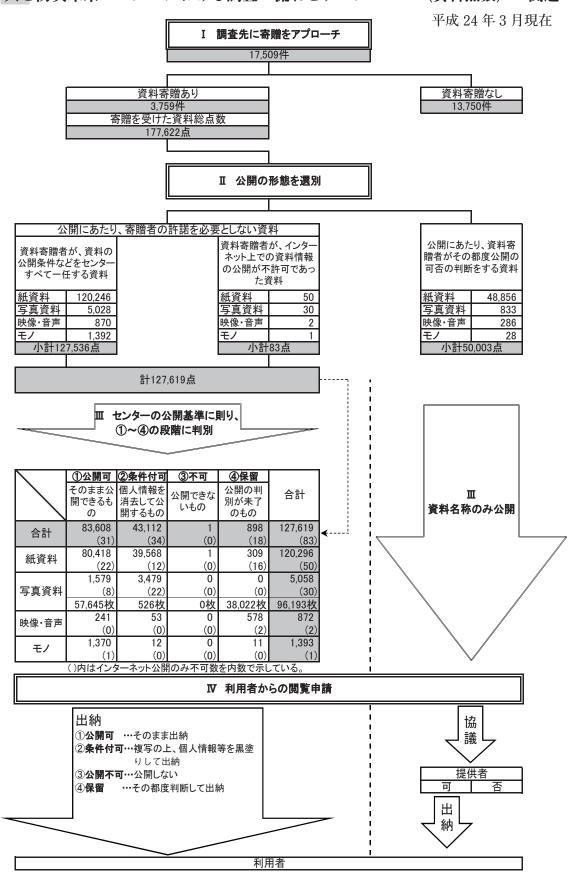
(単位:人)

月	人数
4 月	429
5 月	559
6 月	453
7月	440
8月	790
9 月	405
10 月	385
11 月	366
12 月	313
1月	372
2月	382
3 月	358
合計	5,252

\*一日あたり平均利用者数 17人

#### 参考資料 6 -(4)

# 人と防災未来センターにおける調査の流れとデータベース(資料点数)の関連





# 新聞記事がとりあげた人と防災未来センター

· 記事抽出対象紙

朝日新聞、神戸新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞の計6紙。 神戸新聞以外はすべて大阪本社版を基本としている。

· 記事抽出期間

平成23年4月1日から平成24年3月31日

・抽出方法

記事見出しあるいは記事本文に「人と防災未来センター」というキーワードを含むも のなど。

平成 23 年度センター関連記事の掲載回数			
新聞名	掲載回数	掲載割合(%)	
読売新聞	7	8.6	
朝日新聞	5	6.2	
毎日新聞	19	23.5	
神戸新聞	38	46.9	
日本経済新聞	3	3.7	
産経新聞	9	11.1	
計	81	100.0	

(参考) 掲載回数累計				
新聞名	掲載回数	掲載割合(%)		
読売新聞	427	18.2		
朝日新聞	346	14.8		
毎日新聞	440	18.8		
神戸新聞	789	33.6		
日本経済新聞	104	4.4		
産経新聞	239	10.2		
計	2,345	100.0		

### ・主な記事内容

### ①イベント

例:阪神・淡路大震災事業関連、夏休み防災未来学校、災害被災地派遣、災害対策 専門研修、追悼のつどい、資料室企画展、資料提供者の特集記事など

### ②人物

例:センター長、副センター長、上級研究員、主任研究員、研究員、震災資料専門 員のコメントなど

- ③各新聞の掲載記事の事例
  - ・センター研究員関係

「生きがいある環境に」『毎日新聞』2011年4月8日 「自然は無情 最悪のシナリオを」『朝日新聞』2011年4月27日 「被災地広報阪神の力」『朝日新聞』2011年5月18日

・センター行事・資料室関係

「「兵庫と水害」関心高く」『神戸新聞』2011年10月20日



# 災害対策専門研修「トップフォーラム in 愛知」カリキュラム

日 時:平成23年8月12日(金) 13:00~17:00

場 所:愛知県自治研修所

主 催:愛知県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

	時 間	内 容
	13:00 ~ 13:05 (05)	開講式 愛知県副知事 片桐 正博
	$13:05 \sim 13:10$ $(05)$	オリエンテーション 人と防災未来センター 主任研究員 上野 友也
第1部講義	$13:10 \sim 13:55$ (45)	東日本大震災の被害状況と今後の復興に向けて 愛知県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 惠昭
義	$13:55 \sim 14:20$ (25)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 主任研究員 上野 友也
	$14:20 \sim 14:35 $ (15)	災害対応における能動的な広報     NHK 大阪放送局 専任ディレクター 近藤 誠司     (人と防災未来センター 特別研究調査員)
	$14:35 \sim 14:50 $ (15)	休   憩
第 2 部演	$14:50 \sim 16:20$ (90)	ワークショップ ・演習オリエンテーション ・現状把握・今後の状況予測 ・今後の対応方針の決定 ・模擬記者会見向けメッセージ作成  人と防災未来センター 研究員 東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター 特任研究員 (人と防災未来センター リサーチフェロー) 近藤 伸也 北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター 助教 (人と防災未来センター リサーチフェロー) 定池 祐季
演習	$16:20 \sim 16:35$ (15)	模擬記者会見(被災地内外に向けたメッセージ発信) 各グループ代表者
	$16:35 \sim 16:55$ (20)	模擬記者会見の講評 NHK 大阪放送局 専任ディレクター 近藤 誠司 全体の講評など 人と防災未来センター センター長 河田 惠昭 首長代表者
	16:55 ~ 17:00 (05)	閉 講 人と防災未来センター 副センター長 大木 健一



# 災害対策専門研修「トップフォーラム in 兵庫」カリキュラム

日 時:平成23年11月11日(金) 13:00~17:00

場 所:兵庫県立大学防災教育センター大教室(人と防災未来センター東館4階)

主 催:兵庫県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

後 援:兵庫県市長会、兵庫県町村会

	時 間	内 容
	13:00 ~ 13:10 (10)	開講式 兵庫県副知事 吉本 知之
第 1 部	$13:10 \sim 13:55$ $(45)$	東日本大震災の被害状況と今後の復興に向けて 兵庫県における自然災害とその対応 人と防災未来センター センター長 河田 惠昭
部講義	13:55 ~ 14:20 (25)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 主任研究員 上野 友也
	$14:20 \sim 14:35 $ (15)	災害対応における能動的な広報 大阪読売サービス(株) 企画編集委員 安富 信 (人と防災未来センター リサーチフェロー)
	$14:35 \sim 14:50 $ (15)	休   憩
	$14:50 \sim 16:20$ (90)	ワークショップ ・演習オリエンテーション ・現状把握・今後の状況予測 ・今後の対応方針の決定 ・模擬記者会見向けメッセージ作成  人と防災未来センター 研究員
第2部演習	$16:20 \sim 16:35$ (15)	模擬記者会見(被災地内外に向けたメッセージ発信) 各グループ代表者 人と防災未来センター リサーチフェロー、研究員
	$16:35 \sim 16:55$ (20)	模擬記者会見の講評 大阪読売サービス (株) 企画編集委員 安富 信 全体講評 人と防災未来センター センター長 河田 惠昭
	$16:55 \sim 17:00 $ (05)	閉 講 人と防災未来センター 副センター長 大木 健一



# 災害対策専門研修「トップフォーラム in 鳥取」カリキュラム

日 時:平成24年1月30日(月) 13:00~17:30

場 所:鳥取県庁講堂

主 催:鳥取県、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

	時 間	内 容
	$13:00 \sim 13:05 $ $(05)$	開講式
	$13:05 \sim 13:10$ $(05)$	オリエンテーション 人と防災未来センター 主任研究員 石川 永子
第 1 部	$13:10 \sim 13:55$ (45)	鳥取県の災害と危機管理 人と防災未来センター センター長 河田 惠昭
部講義	$13:55 \sim 14:20$ (25)	災害対応における首長の役割 人と防災未来センター 研究主幹 紅谷 昇平
	$14:20 \sim 14:35$ (15)	災害対応における能動的な広報     NHK 大阪放送局 専任ディレクター 近藤 誠司     (人と防災未来センター 特別研究調査員)
	$14:35 \sim 14:50 $ (15)	休憩
	$14:50 \sim 15:20 $ (30)	大震災後の新たな防災トップマネジメント 鳥取県知事 平井 伸治
	$15:20 \sim 16:50$ (90)	<ul> <li>ワークショップ         <ul> <li>・演習オリエンテーション</li> <li>・現状把握・今後の状況予測</li> <li>・今後の対応方針の決定</li> <li>・模擬記者会見向けメッセージ作成</li> <li>人と防災未来センター 研究員</li> </ul> </li> </ul>
第2部演	$16:50 \sim 17:05$ (15)	模擬記者会見(被災地内外に向けたメッセージ発信) 各グループ代表者
演習		NHK 大阪放送局 専任ディレクター 近藤 誠司 NHK 大阪放送局 アナウンサー 野村 優夫 (人と防災未来センター 特別研究調査員)
	$17:05 \sim 17:25$ (20)	模擬記者会見の講評
	$17:25 \sim 17:30 $ $(05)$	閉 講 人と防災未来センター 副センター長 大木 健一



# 平成 23 年度春期 災害対策専門研修

### マネジメントコース:ベーシック

## 主担当:主任研究員 阪本 真由美

	6月21日 (火)	6月22日 (水)	6月23日 (木)	6月24日 (金)
1限 09時30分 ~ 10時45分		<ul><li>災害過程論 木村 発改 長庫県立大学 環境人間学部准教授・災害発生後に、被災者が直面する 様々な課題を時間軸から理解する。</li></ul>	水害) 川池 健司	地域防災計画論 永松 伸吾 関西大学社会安全学部准教授 ・地域防災計画の法的な位置づけとそ れを補完するプログラム、活用方策 の事例を学ぶ
11時00分	10:40~11:00 開講式 11:00~12:15 オリエンテーション 阪本 真由美 主任研究員	ライフライン被害の様相 平山 修久 京都大学大学院工学研究科特定准教 授 ・災害時のライフラインの被害の様相 と復旧過程、市民生活への影響を理 解する。	・危機管理の基礎的な考え方と実務上 のとらえ方を理解する	リスクコミュニケーション概論 吉川 肇子 慶応義塾大学商学部教授 ・人びとがリスクをどのように認識し ているのかを理解したうえで、緊急 時の効果的な情報伝達方法を学ぶ
13時15分	災害をもたらす自然現象の理解(地震) 演判 純史 上級研究員 ・地震発生のメカニズムと、それによる物理的・社会的被害を理解する	地震による建物被害 堀江 啓 株式会社インターリスク総研主任研 究員 ・地震及び地震火災による建物被害を 理解する	・災害対応にあたって使える権限・財	・地震動による液状化など、地盤被害
14時45分	14:35~15:50 災害をもたらす自然現象の理解(津 波) 奥村 与志弘 主任研究員 ・津波発生のメカニズムとそれによる 物理的・社会的被害を理解する	プ) 災害時に被災者が直面する生活課題 阪本 真由美 主任研究員 ・災害発生時に人びとが直面する生活 上の課題を具体的にイメージするこ	課題を学ぶ ・都道府県と市町村災害対応の違いを 理解する	全体討論会 版本 真由美 主任研究員 等 ・参加者との意見交換から、立場によ る考え方の違いを学ぶ
	15:55 〜 センター展示見学	<b>とができる。</b>	<ul> <li>計論を通じて災害発生後に対応しなければならない課題と対応の考え方の理解を深める</li> </ul>	16:00~16:40 レポートタイム 16:40~16:55 閉講式
17時30分 ~ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

### マネジメントコース:エキスパートA

### 主担当:主任研究員 上野 友也

	1 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7			・工匠物儿员 工力 及じ
	6月7日(火)	6月8日 (水)	6月9日 (木)	6月10日 (金)
1限 09時30分 ~ 10時45分		危機対応時の組織論 (トップの対応) 遠藤 勝咎 ときわ総合サービス社長 ・阪神・淡路大震災でのトップの災害 対応、危機管理に対する心得を学ぶ	甲斐 達朗 上級研究員 ・災害現場の医療活動体制について理	市民社会ワークショップ 立木 茂雄 上級研究員 山本 康史 ハローボランティア・ ネットワークみえ代表 平野 昌 ハローボランティア・ネットワークみえ事務局 ・災害時の被災社会の対応において、 ボランティアの果たす役割、市民の
2限 11時00分 ~ 12時15分	10:40 ~ 11:00 開講式 11:00 ~ 12:15 オリエンテーション 上野 友也 主任研究員	時事通信社山形支局長	災害対応概論 (復旧・復興期) 中林 一樹 上級研究員 ・復旧・復興期の対応と課題について 学ぶ	力の特徴と行政との関係のあり方について理解を深める
13時15分	災害対応概論(初動期) 紅谷 昇平 研究主幹 ・初動対応時の対応と課題について理 解を深める	防災計画・マニュアルの考え方 目黒 公郎 客員研究員 ・災害対応に活かすことができるマ ニュアルの考え方について学ぶ	※ 展示施設見学	災害対応演習 上野 友也 主任研究員 ・危機発生時の具体的な課題をもと に、災害対応の考え方について学ぶ + ・ 災害事例 WS
	都市の復興機論+復興まちあるき 小林 都雄 客員研究員 ・阪神・淡路大震災の被災地を歩きな がら、復興過程と様々な取り組みを 学ぶ		・災害時の自衛隊の役割や、組織・ロ ジスティックスの特徴などについて 学ぶ	
5限 16時15分 ~ 17時30分		危機対応時の組織論 (情報システム) 浦川 豪 兵庫県立大学総合教育センター内防 災教育センター准教授 ・災害発生直後の被害予測技術、シス テム設計における業務分析の考え方 を学ぶ	<ul><li>・災害時の情報提供方法、報道機関対応の課題を学ぶ</li></ul>	16:00 ~ 16:40 レポートタイム 16:40 ~ 16:55 閉講式
17時30分 ~ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	



# マネジメントコース:エキスパートB

## 主担当:主任研究員 石川 永子

	6月14日 (火)	6月15日 (水)	6月16日 (木)	6月17日 (金)
1限 09時30分 ~ 10時45分		阪神・淡路大震災の復興まちづくり における法制度上の課題 弁護士 古殿 宣敬 税理士 江本 明義 ・阪神・淡路大震災における法制度適 用の実態とその問題、課題について	丸谷 浩明 (財) 建設経済研究所研究理事 ・各公共機関における BCP の意味と 重要性について、また、その導入に	・災害時における公共機関以外の組織
2限 11時00分 - 12時15分	10:40 ~ 11:00 開講式 11:00 ~ 12:15 オリエンテーション 石川 永子 主任研究員	富士常葉大学環境防災学部教授 ・被害認定の種類、また被災者への支	リスクマネジメント概論 小林潔司 上級研究員 ・行政評価の手法と考え方、防災計画 等に基づく事業の評価手法について	災害対応従事者の業務管理論 岩井 圭司 長庫教育大学大学院学校教育研究科 教授 ・災害対応業務を行う上でのマインド ケアについて
3限 13時15分 ~ 14時30分 4限 14時45分 ~ 16時00分	長	災害対策本部の空間構成設計演習 牧 紀男 京都大学防災研究所准教授 元谷 豊 株式会社サイエンスクラフト東京事 株式会社サイエンスクラフト東京事 株式会社サイエンスクラフト東京事 株式会社サイエンスクラフト東京事 株式会社サイエンスクラフト東京事 株式会社サイエンスクラフト東京事 株式会社サイエンスクラフト東京事 株式会社サイエンスクラフト東京事 株式会社サイエンスクラフト東京事 大震が関係を表現をいる。 「選習を交えて理解する」	つ、災害時の対応イメージを豊かに することの重要性とその方法につい	展示施設見学 全体討論会 石川 永子 主任研究員 ・参加者との意見交換から、立場によ る考え方の違いを学ぶ
5限 16時15分 ~ 17時30分	災害情報共有手法 宇田川 真之 主任研究員 ・情報共有の具体的方法について	都市巨大災害論 河田 惠昭 人と防災未来センター長 ・事例を通じて災害による被害過程の 全体像について理解する	標準的な災害対応システム論 木村 玲欧 兵庫県立大学環境人間学部 准教授 ・災害対応における標準的業務手順や 対応手法について	16:00 ~ 16:40 レポートタイム 16:40 ~ 16:55 閉講式
17時30分 ~ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	



# 平成 23 年度秋期 災害対策専門研修

## マネジメントコース:エキスパートA

## 主担当:主任研究員 奥村 与志弘

	v	v		
	10月4日 (火)	10月5日 (水)	10月6日 (木)	10月7日 (金)
1限 09時30分 / 10時45分		災害対応概論(応急期) 石川 永子 主任研究員 ・応急対応期の対応と課題について理 解を深める	災害対応概論(初動期) 紅谷 昇平 研究主幹 ・初動対応時の対応と課題について理 解を深める	都市の復興概論+復興まちあるき 小林 都雄 客員研究員 (神戸山手大学現代社会学部 教授) ・阪神・淡路大震災の被災地を歩きな がら、復興過程と様々な取り組みを 学ぶ
2限 11時00分 ~ 12時15分	10:40 ~ 11:00 開講式 11:00 ~ 12:15 オリエンテーション 東村 与志弘 主任研究員	危機対応各論(自衛隊の災害派遣) 高野 康悦 陸上自衛隊中部方面総監部 防衛部 防衛課長 1等陸佐 ・災害時の自衛隊の役割や、組織・ロ ジスティックスの特徴などについて 学ぶ	※ 展示施設見学	
3限 13時15分 - と 14時30分	NPO・NGO の果たす役割とその特	救命救急センター長)	危機対応時の組織論 (情報システム) 浦川 豪 兵庫県立大学総合教育センター内防 災教育センター准教授 ・災害発生直後の被害予測技術、シス テム設計における業務分析の考え方 を学ぶ	立木 茂雄 上級研究員 (同志社大学社会学部 教授) 山本 康史 ハローボランティア・ ネットワークみえ代表 平野 昌 ハローボランティア・ネットワークみえ事務局 ・災害時の被災社会の対応において、
4限 14時45分 - と 16時00分	災害対応各論(自治体財政) 中川 和之 時事通信社山形支局長 ・我が国の防災体制、厚生労働省の役 割等の理解を深める	災害対応演習 臭村 与志弘 主任研究員 ・危機発生時の具体的な課題をもと に、災害対応の考え方について学ぶ + ・ 災害事例 WS		ボランティアの果たす役割、市民の 力の特徴と行政との関係のあり方に ついて理解を深める
5限 16時15分 ( 17時30分	災害対応概論 (復旧・復興期) 中林 一樹 上級研究員 (明治大学 大学院政治経済学研究科 特任教授) ・復旧・復興期の対応と課題について 学ぶ	上野 友也 主任研究員 ・災害対応に関わるワークショップを 行い、研修で得た知識を実践に活か す方法を考える	危機対応時の組織論(情報提供・報 道機関対応) 安富 信リサーチフェロー (大阪読売サービス株編集制作本部 企 画編集委員)、 川西 勝リサーチフェロー (誘売新聞大阪本社 科学部次長) ・災事時の情報提供方法、報道機関対 応の課題を学ぶ	16:00 ~ 16:40 レポートタイム 16:40 ~ 16:55 閉請式
17時30分 ~ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

### マネジメントコース:エキスパートB

### 主担当:研究員 佐伯 琢磨

	10月18日 (火)	10月19日 (水)	10月20日 (木)	10月21日 (金)
1限 09時30分 ~ 10時45分 2限	10:40~11:00 開講式		牧 紀男 京都大学防災研究所准教授 元谷 豊 株式会社サイエンスクラフト東京事 株式所以部主任 ・災害対策本部のレイアウトの重要	都市巨大災害論 河田 惠昭 人と防災未来センター長 ・事例を通じて災害による被害過程の 全体像について理解する 非公共機関の災害対応
11時00分 ~ 12時15分	11:00~12:15 オリエンテーション 佐伯 琢磨 研究員	することの重要性とその方法について、ゲーミング手法を活用して学ぶ	演習を交えて理解する	水島 重光 日本生活協同組合連合会 震災担当世話人 ・災害時における公共機関以外の組織 との連携について
3限 13時15分 - 14時30分	災害対応従事者の業務管理論 岩井 圭司 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授 ・災害対応業務を行う上でのマインド ケアについて	桑井 弘之 豊岡市総務部防災課長補佐兼防災係長 ・災害事例をもとに、災害対応の課題	阪神・淡路大震災の復興まちづくり における法制度上の課題 弁護士 河瀬 真 不動産鑑定士 櫻井美津夫 ・阪神・淡路大震災における法制度適 用の実態とその問題、課題について	紅谷 昇平 研究主幹 ・各公共機関における BCP の意味と
4限 14時45分 ~ 16時00分	標準的な災害対応システム論 木村 辞欧 兵庫県立大学環境人間学部 准教授 ・災害対応における標準的業務手順や 対応手法について	と対応方法の考え方について理解を 深める ・事例をもとに意見交換を行い、災害 対応のあり方について理解を深める	被害認定業務 田中 聡 富士常葉大学環境防災学部教授 ・被害認定の種類、また被災者への支 援にとって重要な罹災証明書発行業 務の実務について	
5限 16時15分 ~ 17時30分	展示施設見学	災害情報共有手法 宇田川 真之 主任研究員 ・情報共有の具体的方法について	リスクマネジメント機論 小林潔司 上級研究員 (京都大学経営管理大学院・大学院工学 研究科都市社会工学専攻(併任)教授) ・行政評価の手法と考え方、防災計画 等に基づく事業の評価手法について	16:00 ~ 16:40 レポートタイム 16:40 ~ 16:55 閉講式
17時30分 ~ 17時45分	レポートタイム	レポートタイム	レポートタイム	

# 平成 23 年度秋期 災害対策専門研修

### アドバンスト/防災監・危機管理監コース

主担当:主任研究員 上野 友也

10月12日(水)	10月13日(木)	
(10:30~10:55) 開講式 (10:55~11:20) オリエンテーション 上野 友也 人と防災未来センター 主任研究員 (11:30~12:30) 「危機対応組織論」 河田 惠昭 人と防災未来センター センター長 危機対応をする上で首長を補佐する職にある人が必要とする能力について理解する。	(10:00~12:30) 「災害対応特論」 室崎 益輝 人と防災未来センター 上級研究員 (関西学院大学総合政策学部教授・同大学災害復興制度研究所 所長) 災害の状況に応じて既存法制度の限界部分、対応策についての 指示、判断ができるようになるための考えを深める。講義は討 論形式で行う。 (途中休憩あり)	
(13:30~14:30) 「目標管理型災害対応論」 紅谷 昇平 人と防災未来センター 研究主幹 目標管理型災害対応の考え方やその具体的内容について、過去 の災害事例を踏まえ理解する。	(13:30~15:15) 「災害対応検討ワークショップ」 室崎 益輝 人と防災未来センター 上級研究員 (関西学院大学総合政策学部教授・同大学災害復興制度研究所 所長) 上野 友也 人と防災未来センター 主任研究員	
(14:45~17:00) 「行政対応特論」 東田 雅俊 日本赤十字社兵庫県支部事務局長(元 兵庫県 防災監) 丸一 功光 神戸市消防局総務部長(元 神戸市広報課主査)	<ul><li>災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針、 策を検討する考え方を演習を通じて深める。 (途中休憩あり)</li><li>(15:30~15:45) レポートタイム</li></ul>	
大規模災害時の対応事例を知り、災害発生後の対応課題と首長に助言すべき内容を学ぶ。講義は討論形式で行う。 (途中休憩あり) (17:00~17:15) レポートタイム	(15:45 ~ 16:00) 閉講式	

## 図上訓練を用いた災害対策本部運営・広報コース

主担当: 主任研究員 宇田川 真之

平成23年12月20日(火)	平成23年12月21日(水)
	(9:00~9:10) オリエンテーション(2日目)
(10:00~10:10) 開講式 (10:10~10:25) オリエンテーション 宇田川真之 人と防災未来センター (DRI) 研究員 演習の全体像、構成について (10:25~11:00) 講義1:災害対策本部での業務 上野友也 研究員 (11:00~11:30) 講義2:災害対応時における広報 大阪読売サービス株式会社企画編集委員 安富信	(9:10~9:30) 作戦会議 役割分担の再確認。 (9:30~11:30) 第2回図上訓練 発生2日後 (11:30~12:00) 本部長レク 1週間後までの災害対応計画案などの説明 (12:00~12:15) 記者会見資料の作成 記者会見資料の作成
(11:30~12:30) 休 憩	(12:15~13:15) 休 憩
(12:30~13:45) 自己紹介・班分け 図上訓練ルール説明 DRI 研究員 (13:45~14:30) 作戦会議 役割分担の確認 (14:30~16:30) 第1回図上訓練 地震発生当日	(13:15~14:45) 記者会見シュミレーション 報道記者 災害対応(演習)を踏まえた記者発表を行う。 (14:45~15:00) 休憩 記念撮影
(16:30~17:00) 本部長レク 状況認識の統一など (17:00~17:50) 振り返り 各グループ・担当ごとに振り返り (17:50~18:00) 講評 演習全体の視点から受講者にアドバイス	(15:00~16:00) 振り返り 各グループ・班ごとに振り返り (16:00~16:35) 発表 振り返り内容について発表 (16:35~16:50) 講評・質疑応答 演習全体の視点から講評と質疑応答
(関白王) (単位に) (サンス (関ロ )	(16:50~17:00) 閉講式
(18:00~18:30) 作戦会議 翌日の図上訓練に向けた改善、準備	



## JICA地域別特股研修「中米防災対策」 日程

			エイドノスパルコ	H 19.	
日時	曜日	時間 (実績)	かりキュラムとの関係	行 崔	研修機関誘演者及び担当者等(予定を含む)(敬称略)
		9:30-9:45		開講式 (DRI)	大木 健一 人と防災未来センター 副センター長
		9:45-10:15		センター概要説明	岸 和民 人と防災未来センター 主幹兼事業課長
11/7	月	10:15-11:00		ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	阪本 真由美
		13:00-17:30		カントリーレポート発表会	人と防災未来センター 研究員 阪本 真由美・佐伯 琢磨
	$\vdash$	9:30-12:00	災害情報	災害情報概論	人と防災未来センター 研究員  宇田川 真之
11/8	火	13:30-15:00	アクションプラン	中米における防災対策の現状と課題	<u>  人と防災未来センター 主任研究員</u>   小村 隆史
11/0	^	15:00-16:30		l	富土常葉大学環境防災学部 防災社会科学分野 准教授   宇田川   真之・阪本  真由美   人と防災未来センター 研究員
	Н	9:30-12:00	アクションプラン 災害情報	ワークショップ:中米の災害情報フローと課題の把握 日本の自然災害	人と防災未来センター 研究員 紅谷 昇平
11/9	水				<u>人と防災未来センター 研究主幹</u> 上野 友也
	$\vdash$	13:30-16:00	災害情報	日本の防災行政	人と防災未来センター 研究員 柿本 雅通
11/10	木	9:30-12:00	災害リスクの伝達と避難		神戸市兵庫区まちづくり課長   吉富 志津代
	Н	14:00-16:30	情報伝達手段	災害時のラジオ放送の活用	FMわいわい 奥村 与志弘
11/11	金	9:30~11:30	事例分析【津波】	津波災害について 	人と防災未来センター 主任研究員
11/12	±	13:30-16:00	アクションプラン	アクション・プラン作成準備	
11/13	日				
		9:00-11:30	事例分析【火山】	火山災害とその対策	宇井 忠英 北海道大学名誉教授、NPO環境防災総合政策研究機構・専務理事
11/14	月	移動		N 移動/神戸→有珠山地域	为内尼八丁自当大区、III V从先间入间自以来明万版件 专切社里
		9:30-11:00	事例分析【火山】	有珠山噴火の歴史と住民による火山啓発の取り組み	三松三朗
11/15	火	12:00-14:30		 有珠山(有珠山頂)にてフィールドワーク	三松正夫記念館 館長 池田 武史、佐藤 忞 (火山マイスター)
		15:30-17:30		災害発生時の行政の対応	山中 淳 前升警町長
	H	9:30~12:00	事例分析【火山】	2000年の噴火とその対応	工藤正彦 壮瞥町総務課長 岡田 弘
11/16	水	13:00-15:00	70000100	有珠山(西山山麓火口群・金比羅火口群)にてフィールドワーク	NPO法人環境防災総合政策研究機構・理事 夏目 與市 (火山マイスター) 、
11/10	1	16:00-18:00		杜瞥町の住民(避難経験者)との意見交換	<u>岡田 弘 NPO法人環境防災総合政策研究機構・理事</u> 壮瞥町の住民(避難経験者)
	$\vdash$	9:00-10:30	7 h : - >	アクション・プラン作成準備①噴火災害と避難のレビュー	佐伯 琢磨
11/17	木		アクションブラン	<u> </u>	人と防災未来センター 研究員
	$\vdash$	移動	// m u = 6 o /= vt   vt = 6	移動/有珠山地域→神戸	紅谷 昇平
11/18	金	9:30-12:00	災害リスクの伝達と避難	避難所運営管理	人と防災未来センター 研究主幹 吉村 優
11/10	_	13:30-16:00	災害情報	日本の防災気象情報	神戸海洋気象台 業務課 防災指導係長
11/19	日日				-L
	Ħ	9:00-11:00	事例分析【地滑り】	地滑り・土砂災害について①	福岡 浩、千葉 達郎 京都大学防災研究所 斜面災害研究センター 准教授、アジア航測
			京都八子切火切丸切		
11/21	月	15:00-16:30	事例分析【地滑り】	住民との意見交換会(防府の土砂災害)	池田武久
		17:00-18:00		 地滑り・土砂災害について②	<u>小野地域自治会連合会 会長ほか</u> 福岡 浩、千葉 達郎
	H	9:15-11:15		土砂災害に対する行政の取り組み	京都大学防災研究所 斜面災害研究センター 准教授、アジア航測 牛丸 正美
		12:30-15:00			防府市 終務部防災危機管理課 課長 佐々木 孝明
11/22	火	15:30-16:30	アクションプラン	アクションプラン作成準備②土砂災害と避難のレビュー	国土交通省 中国地方整備局 山口河川国道事務所 防府山系砂防   佐伯   琢磨
		移動	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	<b>移動/防府地域→神戸</b>	<u>   人と防災未来センター 研究員                                   </u>
11 /00	水	15.00			
11/23	祝				11 11 +# - 67 11 +# - 87 ch - 17 - 655+# No Valla Taura
11/24	木	9:00-12:00		地域における災害リスクの把握(タウン・ウオッチ) 	小川 雄二郎・小村 隆史・茨木 徹雄・Mayra Valle Torres BOSAI International代表、富士常業大学環境防災学部 防災社会
	Ĺ	13:30-17:00	災害リスクの伝達と避難	地域における災害リスクの把握(タウン・ウオッチ)	小川 雄二郎・小村 隆史・茨木 徹雄・Mayra Valle Torres BOSAI International代表、富士常葉大学環境防災学部 防災社会
11/25	金	9:00-12:00		地域の災害リスクを踏まえた避難対策の検討	小川   雄二郎・茨木 徹雄  BOSA   International代表、アジア防災センター主任研究員
		13:30-16:00	情報伝達手段	マスメディアによる災害情報の伝達	近藤 誠司 NHK大阪放送局報道部 専任ディレクター
11/26 11/27	土日				
		9:30-12:00	情報伝達手段	災害時の人工衛星による画像情報の活用 (国際チャーター)	杉浦 正美 アジア時代センター
11/28	月	13:30-16:00	防災教育	いざカエルキャラバン	- アジア防災センター   永田 宏和・永田 智子   NPO法人ブラス・アーツ理事長、事務局員
	П	移動		移動/神戸→尾鷲	
11/29	火	13:15-15:15	事例分析【津波】	尾鷲市・賀田地区にてフィールドワーク	機本
		15:30-16:30	]	JAMSTEC地震・津波観測監視システムの陸上局について	大塚 清 (神)海洋研究開発機構(JAMSTEC) 地震津波・防災研究プロジェクト担当
		9:30-11:30		尾鷲市における津波対策	川口 明則 尾鷲市防災危機管理室長
11/30	水	13:00-15:30		尾鷲市・尾鷲湾地区、大紀町錦地区にてフィールドワーク	尾鷲市、大紀町
		移動		移動/尾鷲→神戸	
12/1	木	9:30-12:00	アクションプラン	アクションプラン作成準備③津波災害と避難のレビュー	佐伯 琢磨 人と防災未来センター 研究員
14/1	1	13:30-16:00	アクションプラン	アクションプラン作成準備④日本の避難対策システム総括	佐伯 琢磨 人と防災未来センター 研究員
		9:00-13:00	アクションプラン	アクションプラン発表会	大井 英臣 JICA
12/2	金	13:30-15:00		評価会	
		15:00-16:00		閉講式	
12/3	±			出発(日本→各国)	
12/4	日		L		1

# センター刊行物

- (1) DRI 調査研究レポート
  - ·平成23年度 研究論文・報告集(Vol.26 2012年3月)
- (2) DRI 調査レポート
  - ・東日本大震災災害対応の現地支援報告(第2報)(No.29 2011年7月)
  - ·平成23年(2011年)台風12号現地調査報告(速報)(No.302011年9月)
- (3) 資料室ニュース (vol.45 ~ 47)
- (4) その他(機構刊行物)
  - ・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構ニュース Hem21 (VOL.27 ~ 32)
  - ・研究レター Hem21 Opinion

平成23年9月号 (中林上級研究員)

平成24年11月号 (田中上級研究員)

平成24年3月号 (林上級研究員)